

教育研究業績書

2018年05月14日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：藤本 かおり

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学	ストーマケア、褥瘡ケア
学位	最終学歴
修士（看護学）	大阪府立大学看護研究科修士課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 学部生への講義（演習）	2017年6月～現在	武庫川女子大学看護学部「成人看護Ⅱ」の演習、「創傷ケア」「ストーマケア」の講義において①自作した「被覆材の貼付手順」「ストーマ器具交換の手順」の動画を使用した。視聴は要点を解説しながら行い、学生自身に手順書作成を指示、手順書に沿っての演習実践を行った。②演習では患者役と看護師役を体験し、実施後にふり返しを行うことで手順習得だけでなく患者の思いを共感できる学習を行った。③講義においては国試の過去問題から作成した質問スライドを加え、病態や解剖整理の理解につなげる学習とした。
2. 実験機材を用いた学習	2017年5月16日	武庫川学院高等学校のスーパーサイエンスコースの学生を対象とした宮嶋教授の授業において、体圧センサーを用いてポジショニングの効果を体験学習する指導を分担した。
3. 初期演習における講義	2016年10月13日～2017年5月2日	武庫川女子大学看護学部1年生を対象とした「初期演習」の授業において、学生が急性期分野の看護をイメージできるように、教員の臨床経験を語る講義を実施した。
4. 学部生への講義補助（救急処置）	2015年4月～現在	武庫川女子大学共通教育科目の「知っておきたい救急処置」では、三角巾の使用法や搬送法などの技術演習のデモンストレーションを学生に分かりやすいよう、ゆっくりと大きな動きで実施し、習得しにくい学生には直接の実施指導を行った。
2 作成した教科書、教材		
1. 成人看護Ⅱの資料作成（演習）	2017年6月7日～現在	講義スライドと資料の作成。講義スライドには動画を取り入れて分かりやすく工夫を行った。学生の配布資料は授業を聞きながら書き込みを行うように作成し、書き込んだ資料の一部は授業後に提出させて評価対象とした。提出資料に質問を書き込めるようにしており、学生の全ての質問に紙面で返答したり学習のヒントを記載して返却した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 学生委員	2015年4月～2016年3月	看護学部開設年度であり、5月の体育祭に向けて応援合戦の学内練習や丹嶺研修に参加し学生の相談に関わった。
2. 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程 講師	2008年9月～2009年9月、2013年7月～2014年7月	京都橘大学 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程において、ろう孔・褥瘡ケアの技術演習の講義（2008年、2009年）と脆弱な皮膚のアセスメントとケア（20013年、2014年）を行った。
3. 救急看護認定看護師教育課程 講師	2008年8月～2009年8月	大阪府看護協会 救急看護認定看護師教育課程において、フィジカルアセスメントとケアの授業を担当した。救急医療で遭遇する創傷の種類や特徴、管理方法について講義を行った。
4. 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程 臨地実習指導	2008年10月～2009年11月、2012年10月～2012年11月	大阪府下の勤務病院において、京都橘大学 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の実習生（8名/4年）の臨地実習指導を行った。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 皮膚・排泄ケア看護認定看護師免許取得	1999年6月～現在	（登録番号：第189号）2004年、2009年、2014年に更新
2. 看護師免許取得	1987年6月	（登録番号：第609682号）
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 創傷ケア用品の上手な選び方・使い方 第3版	共	2015年9月1日	日本看護協会出版会、東京	創傷に使用する多くの被覆材の特徴と使用方法を症例写真を使用して分かりやすくまとめた。第1版から継続して執筆している。本人担当部分：ハイドロファイバー、ハイドロポリマー、その他のドレッシング材 監修；田中秀子。共著者；渡邊光子、加藤昌子、上出良一、河合修三、祖父江正代、近藤貴代、藤本かおり、佐藤明代、江幡智栄、加藤裕子
2. 褥瘡チーム医療ハンドブック	共	2007年9月4日	文光堂	褥瘡の基本的な知識と領域別の褥瘡ケア、栄養・嚥下などをまとめたハンドブック。ICUでの褥瘡発生要因の理解をするために、ICUでの特徴的な個体要因、ケア・治療に関連する要因を挙げ、リスクアセスメントと介入すべきケア方法について記載した。本人担当部分：IV章、4節「ICUの褥瘡予防」p75-79（単著）監修；宮地良樹、三富陽子。共著者；川上重彦、大浦武彦、松村由美、安部正敏、石川治、田村敦志、溝上裕子、大江真琴、藤本かおり、他多数
3. ストーマケア エキスパートの実践と技術	共	2007年9月10日	日本ET/WOC協会、照林社	全国のET・WOC100名以上が専門家としてのストーマケアのコツやエビデンスについて文献を用いて記載。本人担当部分：第2章、3 ストーマ装具の選択基準と判断（関西ブロックET/WOC計14名で担当）p68-79（共著）編集；日本ET/WOC協会 共著者；笹井智子、岡田依子、岡山カナ子、深井照美、加藤雪絵、正壽佐和子、宮崎啓子、澁谷由紀、笹岡奈美子、菅井亜由美、藤本かおり、田中千恵、末平智子、重正子、他多数
2 学位論文				
1. 周手術期のストーマ造設患者家族のストレスに対する認識と希望する援助	単	2011年3月13日	大阪府立大学大学院看護学研究科（修士論文）	周手術期のオストメイトの家族は、ボディケアの援助だけでなく患者の生活の不具合に対する心配など様々なストレスを抱えており、WOCや看護師による不安を軽減するような励ましや態度、相談しやすい体制の情緒的サポートと、退院後の相談と入院中の排泄の管理とセルフケアの指導により患者の生活が整えられること、ストーマ装具類にかかる費用や退院後の生活に必要な情報の提供などの道具的サポートを行うことが必要であると考えられた。
3 学術論文				
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 排便管理システムの効果と評価	共	2014年5月16日	創傷・ストーマ・失禁管理学会	重症患者の水溶性便失禁に用いる排便管理システムの使用方法と注意点、使用症例に対する評価などを講演し、ハンズオンレクチャーを実施した。
2. 救急におけるWOCの役割	単	2000年7月15日	第82回近畿救急医学研究会（大阪）	皮膚・排泄ケア認定看護師として、救急領域ではまだ浸透していないケア用品の使用法や褥瘡予防ケアについて教育講演をおこなった。
2. 学会発表				
1. 骨突出模型による高機能エアーマットの45度頭側挙上での沈み込み調査ーベッドメイキングによる比較ー	共	2017年3月5日	第14回 日本褥瘡学会近畿地方会	先行研究において高機能エアーマットを使用した仰臥位姿勢ではシーツのベッドメイキング方法によりハンモック現象が確認されたが、45度の頭側挙上においてはハンモック現象を認めなかった。その理由について考察を含め発表した。 藤本かおり、宮嶋正子 本人担当分：研究全般、発表を担当
2. Current Status and Problems Concerning Fundamental Competencies	共	2017年	The 20th EAFONS (east asian forum of nursing scholars)	アクティブラーニングを意識した授業を取り入れ、2年次の看護学生の社会人基礎力がどのように変化したかを分析した。 平野方子、宮嶋正子、藤本かおり、玉木朋子、池田七衣
3. 臥床高齢患者の布団被覆前後における足底皮膚表面温度の変化について	共	2016年9月	日本褥瘡学会誌	日常生活自立度Cランクの患者19名を対象に足部の温度変化を調査。布団被覆前の寝床内温度が低いほど皮膚表面温は低く、布団被覆前の皮膚表面温度が高いほど除去後も温度が高い傾向を確認した。 木内 さゆり、伊部 亜希、林 愛乃、宮嶋 正子、片山 恵、藤本 かおり、石澤 美保子、竹田 和博、阿曾 洋子
4. 長期臥床高齢者における自律神経活動の実態	共	2016年9月	第15回日本看護技術学会	日常生活自立度Cの患者を対象にLF/HF比から自律神経活動について調査。健常者に比べ1日を通して活発な自律神経活動を認めなかった。 林 愛乃、伊部亜希、阿曾洋子、宮嶋正子、片山恵、石澤美保子、藤本かおり
5. 長期臥床高齢者における布団被覆時の足部血流の変化と自律神経活動との関係	共	2016年9月	第15回日本看護技術学会学術集会	褥瘡発生リスクのある長期臥床高齢者において布団被覆で足部血流の増加を認め、LF/HF比の変動係数と血流の変化に関係を認めた。 伊部亜希、阿曾洋子、林 愛乃、宮嶋正子、片山恵

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
6. 下腿部の掛け布団の有無による足底湿度の変化に関する研究	共	2016年6月	日本人間工学会第57回大会	、石澤美保子、藤本かおり 足底の湿度は精神性発汗の程度を示すが、掛け布団の除去による温度刺激により約半数の高齢者に湿度上昇を認め、男女比では男性が有意に多い結果が得られた。 藤本 かおり、阿曾 洋子、宮嶋 正子、片山 恵、伊部 亜希、林 愛乃、石澤 美保子、竹田 和博、羽賀知行、長岡 浩 本人担当分：研究全般、発表を担当
7. 臥床高齢者の足部掛布団有無による足部皮膚温保持効果の評価	共	2016年6月	日本人間工学会第57回大会	健康高齢者20名を対象に足部の掛け布団の有無で皮膚表面温度がどのように変化するかを測定。計測部位は胸部、下腿部、足底、足元の寝具上とし、被覆直後は高い温度勾配で皮膚表面温度は上昇し、除去後はさらに強い勾配で下降を示した。 宮嶋 正子、阿曾 洋子、伊部 亜希、片山 恵、藤本 かおり、林 愛乃、石澤 美保子、羽賀 知行、竹田 和博
8. アクティブラーニングを意識した授業運営後の看護系大学1年生の社会人基礎力の現状	共	2016年3月	第42回日本看護研究学会学術集会	グループワークや自己学習を積極的に取り入れた授業により学生の社会人基礎力が変化するか、授業実施後にアンケートを実施し質的に分析した。 藤本 かおり、池田 七衣、平野 方子、宮嶋 正子 本人担当部分：データ分析、発表を担当
9. 高機能エアーマットの頭側挙上で病的骨突出の仙骨部に起こる変化	共	2016年11月	看護人間工学会誌	病的骨突出がある患者では高機能エアーマットを用いても仙骨部の圧は高いが、頭側挙上によって体圧値が極端に上昇することは無かった。しかし、仙骨特記部のずれ幅は大きく褥瘡発生のリスクが高いことが明らかになった。 藤本 かおり、竹村 実紀、宮嶋 正子 本人担当分：研究全般、発表を担当
10. 臥床高齢者と健康高齢者における布団被覆時の足部血流変化の比較	共	2016年11月	第37回バイオメカニズム学術講演会	臥床高齢者と健康高齢者の推定血流量の比較では、下腿部の布団被覆による変化は健康高齢者に大きく、再度布団を除去してからの変化も健康高齢者が優位に変化していた。 伊部亜希、阿曾洋子、宮嶋正子、林愛乃、片山恵、藤本かおり、石澤美保子、羽賀知行、竹田和博、長岡 浩
11. 集中治療入室患者の仙骨部・踵部角層水分量におよぼす影響因子の検討	共	2015年8月	日本褥瘡学会	ICU入室患者14名を対象に仙骨部と踵部の水分量を計測比較したところ明らかに踵部角層質の水分含有量が低く、踵部角層水分量に影響を与える因子としてAPACHE IIスコアと相関を認めた。 宮嶋 正子、内垣 亜希子、藤本 かおり、池田 七衣、平野 方子、伊部 亜希、阿曾 洋子
12. 布団被覆時の血流と皮膚表面温度、寝床内温度・湿度との関係—高齢者を対象とした踵骨部での検討—	共	2015年10月	第23回看護人間工学会	推定血流量、皮膚表面温度・湿度、寝床内温度・湿度とも被覆により上昇した。血流量が大きいほど寝床内温度変化も大きい正の相関を認めた。 伊部 亜希、阿曾 洋子、宮嶋 正子、石澤 美保子、林 愛乃、藤本 かおり、片山 恵、羽賀 知行、竹田 和博
13. Changes in pain and feelings of patients undergoing pancreatic surgery until 3days after Surgery	共	2015年10月	European Nurse Directors Association & World Academy of Nursing Science	The present study aimed to analyze pain levels, measured on a vas, as well as self-reported worries and feelings in patients undergoing pancreatic surgery until 3days after surgery, and to assess changes in these parameters among these three time points. Nanae Ikeda, Rie Tomizawa, Rika Moriya, Junko Yamana, Hiroyoshi Suzuki, Masako Miyajima, Masako Hirano, Kaori Fujimoto, Koji Umeshita
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 45度頭側挙上体位での仙骨部骨突出部位に寝衣の違いが及ぼす圧力とずれの調査	単	2017年～2020年	基盤研究C（一般）H29～H32：代表	高齢化に伴い、寝たきりや高度病的骨突出のある高齢者が増加しており、療養生活の中では頭側挙上をする機会が多い。このため骨突出部位に強い圧力とずれ力がかかり褥瘡発生や悪化をきたしやすい。特に体側に近い寝衣部分での圧力・ずれ力が骨突出部位に影響していると考えられる。褥瘡予防に効果的なケア方法を開発するため、本研究では、45度頭側挙上体位での仙骨部骨突出部位に寝衣の違いが及ぼす圧力とずれを調査することを目的としている。
2. 入院・在宅高齢者の褥瘡早期検出	共	2017年～現	科学研究費基金（基盤C	代表：宮嶋正子の分担研究者として参加

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
機器開発の基礎研究		在) : 分担	インピーダンスを用いて皮膚組織の損傷を判断する機器の開発を目的とする研究であり、寝たきり高齢者の皮膚血流や電気量の測定から褥瘡評価の指標となるデータを蓄積する部分を担当する。
3. 褥瘡予防のための足部・下腿部の産熱保持寝具・被覆用具による血流維持効果の検証	共	2015年～現在	科学研究費基金（基盤C）：分担	代表：阿曾洋子の分担研究者として参加 褥瘡予防を目的に、下肢の血流と病床内気候の関係を明らかにする研究で、温度・湿度を変数として下肢の深部・体表血流の変化を調査する。
4. 45度頭側挙上体位でのベッドメイキングの違いによるハンモック現象の発生状況調査	単	2015年～2018年	科学研究費補助金（研究活動スタート支援）：代表	重度病的骨突出者に対する褥瘡予防ケアを開発するため、高機能エアーマット上で仙骨突出模型を使用して、「シーツなし」「処理なし」「コーナー法」「結ぶ法」の4つのベッドメイキングの45度頭側挙上でのハンモック現象の発生調査を行った。最もシーツの針が強いと予測した「結ぶ法」においても明らかなハンモック現象は生じなかった。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2016年4月13日	兵庫県オストミー協会相談会 講師
2. 2016年10月21日～10月23日	関西ストーマケア講習会(兵庫ブロック) 実行委員・講師
3. 2016年～現在	日本褥瘡学会近畿地方会 世話人
4. 2015年9月～現在	兵庫県看護協会復職支援研修フィジカルアセスメント・創傷ケア 講師